

河川空間のオープン化の実施動向と事業傾向に関する研究 Study on Implementation Trends and Project Trends of Open River Space

○川名神威¹, 菅原遼²

*Kamui Kawana¹, Ryo Sugahara²

Abstract: In recent years, public-private partnerships have been promoted to revitalize communities, and a project to open up river spaces has been underway since 2011. In considering future developments, it is necessary to take a comprehensive view of the 116 cases nationwide. Therefore, this study captured project implementation trends and project trends. As a result, it can be said that the opening up of river space has become increasingly polarized in terms of use patterns, project schemes, and population attracted, and in recent years has been concentrated in suburban areas.

1. はじめに

近年、公民連携によるまちづくりが促進され、河川においてもかわまちづくり制度やミズベリングプロジェクトなど地域活性化を目指した取り組みが広がっている。そうした中、国土交通省が2011年に通達した特例措置の一般化により、河川空間のオープン化が始まり、2023年3月時点で116事例まで活用が進んでいる。

事例が増えている一方で、全国の事例を対象とした既往研究は、筆者ら¹⁾による2014年12月までの24事例を対象とした分析にとどまっている。また、事例整理や事業傾向を把握したものは、事例が集中している地域の局所的な分析にとどまっている。そのため、今後の河川空間のオープン化の展開を考えていく上で、現在の全国116事例を包括的に捉える必要がある。

そこで本研究では、河川空間のオープン化の実施動向と事業傾向を利用形態、事業スキーム、到達圏人口の視点から捉えることを目的とする。

2. 調査概要

Table1に調査概要を示す。本調査では、河川空間のオープン化活用事例集²⁾より、各事例の事業タイプとして、利用形態及び事業スキームを把握し、到達圏人口の把握のためjSTAT MAPより徒歩15分の範囲を到達圏人口として算出し実施動向と事業傾向を捉えた。

Table 1 Survey outline

調査1	調査方法	文献調査
	調査対象	河川空間のオープン化活用事例集
調査項目	利用形態、事業スキーム	
調査2	調査方法	文献調査
	調査対象	地図で見る統計 (jSTAT MAP)
	調査項目	徒歩15分到達圏人口 (令和2年国勢調査)

Table 2 Case summary

年	所在地	区域名称	事業タイプ	年	所在地	区域名称	事業タイプ	年	所在地	区域名称	事業タイプ				
2011	広島県広島市	水辺のオープンカフェ	●-2-C	2016	新潟県三条市	三条防災ステーション周辺	●-2-A	2020	岡山県岡山市	鳥城公園(石山公園地区)オープンカフェ	●-2-A				
	大阪府大阪市	八軒家浜	■-1-B		宮崎県延岡市	大貫かわまち交流広場	●-2-A		東京都豊田区	隅田川かわてらす*	●-1-B				
	愛知県名古屋市中区	納屋橋地区	●-2-B		埼玉県飯能市	飯能河原及び周辺	▲-2-A		福井県福井市	AQUAテラス	◆-1-B				
	大阪府大阪市	中之島パルクス	●-2-B		静岡県島田市	蓬萊橋周辺地区	◆-2-A		兵庫県神戸市	有馬川親水広場等	◆-2-C				
	大阪府大阪市	中之島東部	◆-2-A		大分県日田市	竹田公園沿い河川敷広場	●-1-A		北海道砂川市	砂川オアシスパーク(砂川治水地)	◆-2-A				
	大阪府大阪市	北浜テラス	●-1-C		大阪府大阪狭山市	狭山池	◆-2-A		東京都世田谷区	二子玉川駅周辺地区	●-1-B				
	大阪府箕面市	箕面川床	●-2-A		広島県広島市	イベント広場等	●-1-C		岡山県岡山市	旭川山景楼クルーズ	★-1-B				
	広島県広島市	水辺のコンサート、水辺のオープンカフェ	●-2-C		兵庫県姫路市	姫路市夢野町山之内地区	◆-1-A		宮城県名取市	隈上かわまちづくり	◆-2-A				
	北海道平取町	平取地域イオ再生事業	◆-1-A		千葉県松戸市	親水テラス等(新松戸地区)	●-2-A		岐阜県岐阜市	長良川右岸フロムロードエリア	◆-2-A				
	大阪府大阪市	水辺遊歩道「とんぼりリバーウォーク」	●-2-B		東京都台東区	隅田川かわてらす*	●-1-B		群馬県長野原町	ハツ場ダム	◆-2-A				
福岡県福岡市	オープンカフェ	●-2-A	埼玉県ときがわ町	都農川河川敷(ときがわ町グランピングプロジェクト)	▲-2-A	埼玉県杉戸町	大落吉利根川河原	◆-2-A							
大阪府大阪市	若松浜	★-1-B	静岡県南門市	伊豆ゲートウェイ公園	■-1-A	広島県広島市	基町環状遊歩	◆-1-B							
新潟県見附市	刈谷田川防災公園	■-1-A	埼玉県春日部市	首都圏外郭放水路	◆-2-C	福井県あわら市	白川河川公園	◆-2-A							
東京都渋谷区	渋谷リパーストリート	◆-2-A	東京都台東区	隅田川かわてらす*	●-1-B	大阪府大阪市	β本町橋	◆-2-B							
東京都台東区	隅田公園オープンカフェ	●-1-B	愛知県豊田市	矢作川「白浜・千石公園地区(コアエリア)」	◆-2-A	埼玉県嵐山町	嵐山渓谷パーベキュー場	▲-2-A							
徳島県徳島市	ひょうたん島遊覧船	★-1-A	東京都渋谷区	渋谷リパーストリート	◆-1-B	滋賀県高島市	STAGEX高島前水泳場	◆-1-B							
新潟県新潟市	通船川河口の森区域	★-1-B	東京都品川区	区立大崎橋広場、区立五反田ふれあい水辺広場	◆-1-B	長崎県諫早市	本明川河川敷(高菜地域)	○-2-A							
山梨県早川町	早川町オートキャンプ場	▲-2-A	岐阜県飛騨市	ミズベリング in 神岡ひだ神岡夏まつり	◆-2-A	滋賀県大津市	湖上TOWNMARKET	●-1-C							
山梨県富士河口湖町	本橋湖(富士河口湖町)	★-2-A	滋賀県高島市	みづびろ水泳場北部	○-1-B	東京都目黒区	目黒川入場	◆-2-A							
埼玉県ときがわ町	ときがわ町「川の広場」	▲-2-A	岐阜県穂波川町	揖斐川町稲川水辺施設等	◆-2-A	北海道網走市	網走港呼人地域	◆-1-C							
埼玉県飯能市	名栗井天原河川広場	▲-2-A	山梨県秋田市	株父ジョグラビティパーク	○-2-A	埼玉県ときがわ町	ときがわ町木のむらキャンプ場	▲-2-A							
岡山県和気町	吉井川河川公園の体験所	◆-2-A	山口県長門市	長門湯本温泉街川床テラス等	◆-1-C	東京都台東区	隅田川かわてらす*	●-1-B							
静岡県浜松市	浜名湖舟遊	★-2-C	東京都江東区	隅田川かわてらす*	●-1-B	熊本県熊本市	竜門ダムキャンプ場	▲-2-A							
広島県広島市	太田川放水路治地	◆-2-A	東京都江東区	大横川かわてらす*	●-未定	熊本県熊本市	白川「緑の区間」	◆-2-C							
静岡県沼津市	かのがわ風のテラス	◆-2-C	山梨県富士河口湖町	西湖(養育尾地区、前浜地区)	▲-2-A	広島県福山市	芦田川緑地かわまち広場	◆-2-A							
山梨県富士河口湖町	精進湖	★-2-A	新潟県津沢町	穴沢河川公園	◆-1-B	大阪府大阪市	安治川右岸(桜島入場上流)	◆-2-B							
埼玉県春日部市	大宮古利根川河川広場	◆-2-A	東京都豊田区	北十間川親水テラス等	●-1-B	福井県敦賀市	山鹿川OutdoorsBase	◆-2-A							
埼玉県客屋町	かわせみ河原	▲-2-A	群馬県みなかみ町	道の駅「みなかみ水紀行館」周辺	◆-2-A	神奈川県横浜市	相模川三川谷治水地区	◆-2-A							
広島県広島市	かき船	●-1-B	埼玉県狭山市	入間川河川敷中央公園(入間川にここテラス)	◆-2-A	岐阜県中津川市	付知川付知地区	◆-2-A							
埼玉県菅野町	狭瀬川河原河川広場	▲-2-A	東京都台東区、墨田区	すみだリバーウォーク	○-1-B	栃木県足利市	本町緑地	◆-2-A							
大阪府大阪市	尻屋川河川広場	●-2-A	北海道帯広市	十勝川河川敷多目的施設	◆-2-A	山梨県身延町	本栖湖(身延町)	▲-2-A							
熊本県五木村	川辺川ダム水辺予定地	▲-2-A	東京都港区	竹芝地区	★-2-B	福岡県宮崎市	大鳴川河川公園	◆-2-A							
三重県四日市市	三洲川遊歩橋市場	■-2-A	北海道室蘭市	十勝川温泉(エコロジーパーク)	◆-2-A	福岡県直方市	直方リバーサイドパーク	◆-2-A							
愛知県岡崎市	乙川リバーフロントQRURUM戦略地区	◆-2-C	北海道室蘭市	豊平川ウォーターガーデン	◆-2-A	福岡県直方市	橋本桜づみ公園	◆-2-A							
新潟県五泉市	咲花温泉地域	◆-1-B	山形県長井市	長井ダム及びダム湖周辺地区(飲食店等)	★-2-A	凡例 ● 飲食1(オープンカフェ、船上飲食施設、レストラン、川床) ▲ 飲食2(キャンプ場、パーベキュー場) ● 販売(売店、道の駅) ★ 船舶(船着場、船舶係留、遊覧船) ◆ イベント・広場(イベント施設、広場) ○ その他 ◆ 船舶(船着場、船舶係留、遊覧船) ◆ イベント・広場(イベント施設、広場) ○ その他									
大阪府大阪市	安治川右岸(船津橋下流)	■-2-A	静岡県伊豆の国市	狩野川神島公園	●-1-A							1-A	河川管理者 ↔ 自治体	2-A	河川管理者 ↔ 自治体 ↔ 事業者
新潟県新潟市	信濃川やすらぎ堤	◆-2-A	愛知県蟹江町	蟹江川緑地	●-2-A							1-B	河川管理者 ↔ 民間	2-B	河川管理者 ↔ 民間 ↔ 事業者
大阪府中央区	日本橋川かわてらす*	●-1-B	大阪府堺市	内川(堺駅歩道橋から南斎橋)右岸	●-未定							1-C	河川管理者 ↔ 協議会	2-C	河川管理者 ↔ 協議会 ↔ 事業者
埼玉県神川町	秩父瀬神流パークパーベキュー場	▲-2-A	新潟県長岡市	与板河川緑地	◆-2-B										
北海道音更町	十勝川温泉(クアパーク)	◆-2-A	埼玉県さいたま市	大門上池調音池底面広場	◆-2-A										
埼玉県横瀬町	道の駅あしがくぼパーベキュー場	▲-2-A	神奈川県相模原市	宮ヶ瀬ダム	◆-2-B										

1 : 日大理工・学部・海建 2 : 日大理工・教員・海建

3. 実施動向と事業傾向

Table2 に各事例の概要を示す。河川空間の利用形態は飲食1, 飲食2, 販売, 船舶, イベント・広場, その他に大別できた。事業スキームは, 河川管理者と占用主体のみの1型と占用主体が事業者と利用契約を結ぶ2型に分けられ, 占用主体が自治体をA, 民間企業をB, 協議会をCタイプとした。

3-1. 河川空間の利用形態

Fig1 に実施開始年と利用形態を示す。事業が開始された2011年の1年間で飲食1が9事例実施されていることがわかる。また, イベント・広場では2016年の占用許可期間の変更を契機に, 現在の56事例まで増加していることがわかる。一方で, 飲食1, 2とイベント・広場以外の利用を行う事例数は横ばいの傾向にある。

3-2. 河川利用に関わる事業スキーム

Fig2 に実施開始年と事業スキームを示す。1-Bは24事例, 2-Aは63事例と, 他のスキームに比べ事例が多いことがわかる。特に, 2-Aは継続的に事例が増加しており, 自治体が占用主体となることで事業者選定の際に公平性, 公益性を担保できるため, こうした事業傾向になっていると考えられる。

3-3. 各事例の到達圏人口

Fig3 に実施開始年, 到達圏人口(以下, 人口)及び利用形態を示す。飲食1は比較的人口の多い場所に事例が集中する傾向にあり, 河川区域内を民間企業が占用し, 店舗等の施設を設置する事例が多いことから, 1-Bの事例が多く見られた。また, 事業が開始された2011年より1-C, 2-Cの協議会が占用主体となる事例が見られ, 協議会が公共性, 公益性の担保を可能とする体制が整えられてきたといえる。飲食2, イベント・広場は比較的広い河川敷地が必要となることから, 人口が少ない郊外部に事例が集中し, 事業者自体が河川区域内の管理運営を担う2-Aの事例が多くなっていることがわかる。また, 2013年以降, 2万人未満の郊外部でも多く展開され, この時期を契機に, 人口2万人を境として事例の集積量が二極化しており, 2万人以上では飲食1, 2万人未満ではイベント・広場の利用形態が多いことがわかる。

4. おわりに

本研究では, 河川空間のオープン化が実施されている全国116事例を対象に実施動向と事業傾向を捉えた。その結果を以下に示す。①事業開始時は飲食1が多く見られたが, 2016年を契機にイベント・広場が増加していた。②事業スキームは河川区域内の公共性担保のため1-B, 2-Aが多く見られた。③2013年を契機に事

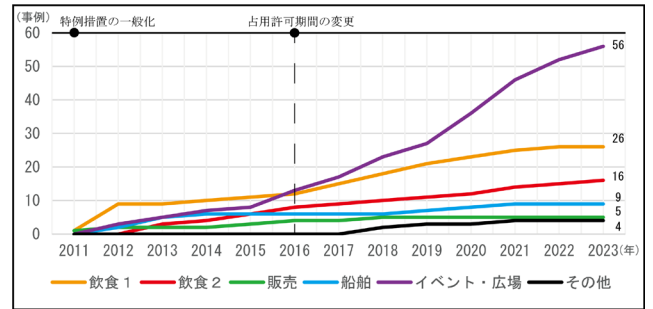


Figure 1 Cumulative number of forms of use

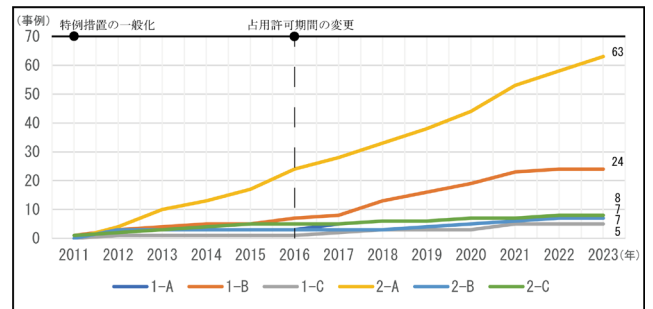


Figure 2 Cumulative number of business schemes

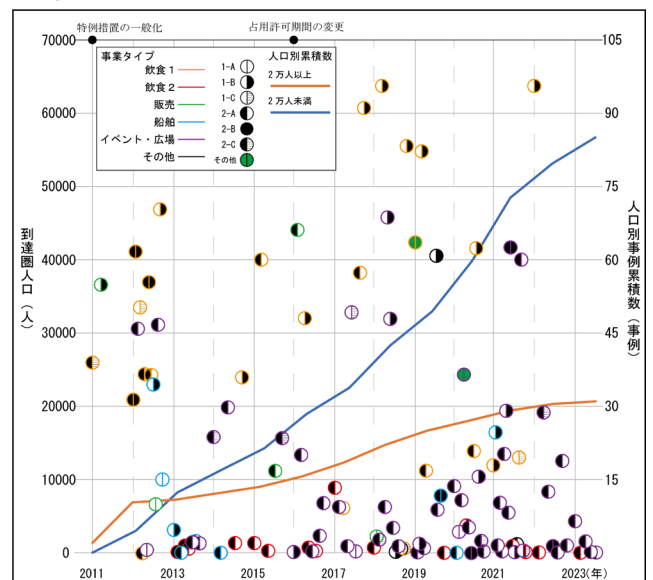


Figure 3 Population served and business type

例は人口規模で二極化され, 2万人以上では飲食1が多く, 2万人未満ではイベント・広場が多く見られた。

以上より, 河川空間のオープン化の事業内容は都心部の商業利用, 郊外部のイベント利用に二極化し始めており, 近年では郊外部の河川利用が集中してきているといえる。

参考文献

[1] 菅原遼, 畔柳昭雄:「水辺の社会実験から見た河川区域の空間利用と地域連携に関する研究—空間構成と事業スキームに着目して—」, 日本建築学会計画系論文集, Vol. 81, No. 722, pp. 971-981, 2016

[2] 国土交通省水管理・国土保全局:「河川空間のオープン化活用事例集」, 2023